

10代のための読書情報

TC 通信

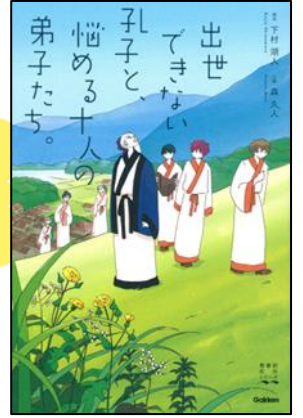
№ 114

2023年11月号

春日井市図書館

◆ご紹介する本は、特に記載がない限り、図書館3階ティーンズコーナー所蔵です。

新着図書 ピックアップ!



『出世できない孔子と、悩める十人の弟子たち。』

下村 湖人/原作 森 久人/小説 Gakken

12/シ/23

下村湖人氏が発表した『論語物語』をベースに、孔子とその弟子たちの青春群像物語として、今の若い人に向けてより親しみやすく『論語』の世界をえがいた本書。

個性豊かな弟子たちの葛藤や言動は、自分もそんな考え方をしてしまうなあ、と共感することも。そこへ彼らの先生である孔子が、軽やかに、時に厳しく諭して弟子たちの愁眉を開きます。知識とは、知恵とは。心のあり様とは。孔子の言葉は、日々迷いがちな心を叱咤激励してくれているようです。優れた教育者である孔子だけれど、頑固で不器用ゆえに仕官しても疎まれたり弟子に批判されてしまったり、旅に出れば兵に囲まれたりと、波乱万丈な冒険譚としても楽しめます。

今回紹介した本を読むと、『論語物語』『論語』のイメージが生き生きと立ち上がってきます。ぜひ合わせて読んでみてね!

名作 たからばこ

『キッチン』

吉本 ばなな/著 新潮社 F/ヨシ/21 3階文庫



本って、読んだときの年齢やタイミングで印象が変わると思いませんか? 私が初めてこの本を読んだのは10代でした。天涯孤独になった主人公みかげが、他人と同居して心を癒していく物語。簡単に紹介するとこんな話です。人の死、その喪失感。他人との同居。同居人の母親は元男性。普通じゃない生活の中でのありふれた日常が、さらりと描かれています。年月は流れ、読み返してみると。文章こそ軽い感じで、なんでもなさそうに見せながら、深い悲しみ、揺らぎ、やるせなさ、無力感などが感じられるのです。そんなツライ状況下で、心の避難所となってくれる田辺家の人たちがいる。はたから見たら不思議な関係だとしても、まるで毛布のようにふわりとした温かい優しさに包まれます。あなたはどうか感じるでしょうか?

テーマ 性の多様性

「性の多様性」について、図書館員がお薦めする本を参考に、考えてみませんか。



『だがし屋のおっちゃんはおばちゃんなのか？』

多屋 光孫/作 汐文社 E/チヨ/22-27 3階児童

ぼくとまきちゃんが大好きなだがし屋。店主は角刈りで筋肉ムキムキ、ガハハと大声で笑う、がに股歩きのおもしろいおっちゃんや。けれどもある日、おっちゃんが「はるこちゃん」と呼ばれてるのを聞いちゃった。おっちゃん、ホントはおばちゃんやったんか…？

にぎやかで遊び心溢れる絵につい目を奪われてしまいますが、「男らしさとは、女らしさとは何か？」というジェンダー問題について真剣に描かれた絵本です。自分や周囲の違和感に向き合い、正直に生きるおっちゃんの思いを知った小学生二人の変化が、かわいらしくも清々しい一冊です。

『性の多様性ってなんだろう？』

渡辺 大輔/著 平凡社 36/セ/18

「女」「男」その2種類以外に性別があるの？じつは「性」のありかたはいろいろあります。自分の性別をどうとらえているか（性自認）。見た目やかたち、身体的な特徴（体の性）。男らしさや女らしさといった社会的文化的な性、いわゆるジェンダー（性表現）。恋愛感情や、好きになる相手の性別はどれか（性的指向）。法律上、規定される性（制度の性）など。私は女の子だから男の子を好きになるのは「普通」だと思っていました。この本を読むと「普通」ってなんだろう？という疑問とともに、世の中の見え方が変わってくるかもしれませんよ。



『図解でわかる14歳からのLGBTQ+』

社会応援ネットワーク/著 太田出版 367.9/ス/21

みなさんは自身の性別について、考えたことはありますか？少し前までの日本は、どちらかという「男・女」二種類の分類しかしていなかったと思います。（性別二元論というらしい。）しかし今、社会の考え方は徐々に変わり、性に多様性があることが知られてきました。

今回紹介するこの本には、“LGBTQ+”に関することがQ&A形式で掲載されています。“LGBTQ+”とはなんのこたなのかという基本的な疑問から同性婚、パートナーシップ制度のことまで、丁寧に解説されています。（ちなみに、春日井市もパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入しています。）

『虹色のパズル』

天川 栄人/作 トミイ マサコ/画 文研出版 913/フン/23

「みんなと同じであること」が上手できないけれど、努力して「ふつう」を装い中学校生活を送る琴子。しかし、女装好きでゲイのおじさんやその周りの人たちと接するうち、やがて「ふつうじゃない」ことを気にせず、自分らしく自由に生きていくことの大事さに気づくのだ。

各章のタイトルが「ゲイって何ですか？」「LGBTって何ですか？」など疑問形になっていて、読み進むうちに琴子と一緒に新しいことを知っていけるよ。

著者は、LGBTに限らず、生きづらさを抱える多くの人に、多様な生き方があっていいよと「虹色」の旗を振っているようだ。



春日井高校 図書委員が 読んだ本！



『ウルド昆虫記バッタを倒しにアフリカへ』

前野 ウルド 浩太郎/著 光文社 48/ウ/20 3階児童



今回の紹介者
2年 布目丸人さん

「バッタ」。幼い頃に、誰でも一度は見つけて追いかけた経験があるのではないだろうか。そんなバッタの研究者である筆者によって、研究生活をユーモラスに、時々脱線しながら綴られた一冊。この本からは、誰も知らなかったバッタの秘密や不思議がザクザク出てくるが、分かりやすくまとめられているおかげで、その知識が頭の中にすいすい入り込んでくる。バッタの魅力で埋め尽くされた、こんな本は今までに無かった、といっても過言ではない。バッタを全く知らない人でも楽しく読めるし、普段あまり本を読まない人でもきっと夢中になれる、そんな一冊である。

ボランティアさんのオススメ

『M』

岩城 けい/著 集英社 F/イワ/23 4階一般

『Masato』『Matt』に続く三部作の完結編。
マサトは父の転勤で12歳の時からオーストラリアに移住。言葉の問題のみならず、多国籍環境下の中で「アイデンティティ」に悩み、日本人の顔をした現地人という自分の立場に苦しんでいる。大学生となった彼は、自分とは反対の立場、現地生まれの異邦人アルメリア人の彼女と出会い、反発を感じながらも惹かれていく。卒業を迎え、彼らが選択する進路がどんなものか、とても興味深い。

from アリスの会



大人の お 押しコレ

お ぼん
大人の押し本

コレクション

大人目線でティーンズに
推したい一冊を紹介。

『ごみ清掃のお仕事』

押田 五郎/著 解放出版社 51/コ/22

皆さんは、ごみと資源物を正しく分別し、決められた日時に集積所に出していますよね。集積所に出されたごみ・資源物は、清掃作業員が収集し、清掃工場の処理場に運ばれて、処理されています。皆さんの衛生環境は清掃作業員によって守られています。

この本には、ごみ・資源の収集等に携わる清掃作業員について、ごみ・資源のことについて、ごみ清掃に関する社会について等がわかりやすく書かれています。この本を通じて、普段お世話になっている清掃作業員のことやごみ・資源のこと等を学びましょう。



図書館員 **K** の本棚

今からちょうど100年前、大正時代だった日本。関東大震災や第一次世界大戦が起こり、まさに激動の時代。一方で、その頃に生まれたモダンな建築、食べものや飲物、華やかな大衆文化は、いまなお私たちを魅了します。

そこで今回は、大正時代を感じる事ができる小説と学べる本をご紹介します。①は著名人や実在した場所がわんさが登場する全8編のミステリ。②は奉公のため上京した少女が浅草オペラと出会う物語。③はYOASOBI制作、同タイトル曲の原作小説。④はフルカラーで大正時代を学べる本です。

ここで紹介した本以外にも、大正時代の本はたくさんあります。気になった方はぜひチェックしてみてください☆

①『名探偵の生まれる夜 大正謎百景』

青柳 碧人/著
KADOKAWA
F/アオ/22 **4階一般**



②『はなの街オペラ』

森川 成美/作
坂本 ヒメミ/画
井上 征剛/監修・解説
くもん出版
918/クモ/21



③『大正浪漫』

NATSUMI/著
双葉社
F/ナツ/22 **4階一般**



④『大注目！写真とイラストでわかる大正時代をのぞいてみよう』

『大正時代をのぞいてみよう』
編集委員会/編著
21/タ/20 **3階児童**



ティーンズコーナーで待ってます！

ティーンズコーナーは、中高生（ティーンズ）世代向けに、さまざまなジャンルの本を集めたコーナーです。図書館3階の北側自動ドアから入り、まっすぐ進んだ先の左側の本棚にあります。看板が目印！

悩み解決のヒントになる本、知識を深める本、趣味を広げる本など、児童書よりもステップアップした内容のものや、10代の皆さんにおすすめの読み物を用意しています。

「〇〇について調べたい！」
「△△の本はどこ？」など、
本に関する相談や探し物は
職員に気軽に聞いてみてね。



発行：春日井市図書館

愛知県春日井市鳥居松町 5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。